サンプルシナリオ1 『最初の災い』

力造りきぞう

概要

ある日の夜、PCたちのもとに不可解なメールが届きます。その内容は「呪印感染」と呼ばれる都市伝説についてです。

内容を確認するにせよ、しないにせよ、PCたちの手の甲には、痛みと同時に「呪印」が浮かび上がります。

以降、PCたちの周囲で、メールの内容にある「十の災い」と思しき怪現象が頻発するようになり、その度、暗がりのなかで、人型をした「赤い影」を目撃するようになります。「赤い影」はPCたちの日常を侵食し、最後にはPCたちの命を狙い始めます。

はたしてPCたちは、この災いを退けられるのでしょうか？

なお、このシナリオは本書をまだ遊んだことがないという人に向けて作成しています。GMはPLに、「本書の世界観やシステムを理解するためのシナリオだ」と説明しましょう。

特別ルール

今回のシナリオでは1回目の「初見表」が、必ず8…「事故からの救出」となります。

〈赤い影〉は「呪印者」が抱く恐怖の感情を糧としているため、PCたちの「呪印」が赤く染まるまで襲ってきません。

そのため、〈赤い影〉は要所所でPCの目前に出現し、特に「導入」でメールを確認しなかったり、メールを流し読みしたりしたPCたちに、可能な限り恐怖を与えようとしています。

なお、〈赤い影〉は次の《正体》を持っています。

《恐怖が好物》 × 1

シーン…判明 コスト…偶・4 対象…1

効果…「判定ダイス」-「恐怖が好物」を取得した数+1」d。

《肉体》 × 1

シーン…恐怖 コスト…連番 対象…使用者

効果…対象は「効果算出」+「肉体」を取得した数+1」d。

《凶悪》 × 1

シーン…恐怖 コスト…1+1 対象…使用者

効果…対象は「効果算出」+「凶悪」を取得した数+3」d。

登場NPC

このシナリオに、NPCは登場しません。

参加者とPC

GM1名、PC最小2体〜最大4体に対応しています。

GMは、PLにサンプルPCを使用させるか、オリジナルのPCを作成させるか決定してください。

【場所表】

このシナリオはP204の「場所表「都市」」を使用します。

《なにか》の正体

このシナリオに登場する《なにか》は〈赤い影〉と呼ばれる、肉体を持つ、正体不明の怪異です。

彼は、PCたちの《過去と秘密》に引き寄せられた存在です。

その姿は全身に赤い光を纏う人型のつべらぼうで、身長は成人男性よりも頭2つ分高く、体格は貧弱そうに見えます。

しかし、人智を超えた膂力を持ち、通常の人間程度であれば、素手で引き裂いてしまいます。

また、影や闇のなかであれば、どこでも移動できる能力を持つため、戦って倒すことは難しいでしょう。

【「事件フェイス」】

PCたちが「日常表」を終え、しばらくたつてのことです。

仕事やアルバイト、遊びや付き合いなどの理由で帰りが遅くなり、時刻は21時頃となっていました。

どんな理由にせよ、PCたちは帰宅のために、最寄り駅のホームに集合しています。

なお、周囲にはPCたち以外、誰の姿もありません。

乗用車などを持つ裕福なPCであっても、今回は車を利用せず、電車を利用していることにしてください。

その際、GMはPLに対して「あまりの静けさに、ふと、かつて見た《過去と秘密》のことを思い出す」と告げます。

PCたちが互いの姿を認識するにせよしないにせよ、しばらく電車を待っていると、PCのスマートフォンが一齐に鳴り、メールを受信します。

ここでGMは「マナーモードにしていたはずなのに、いつの間にか、音量がオンになっていることに気付く」と告げます。

もし、スマートフォンをもっていないというPCが居た場合、電車の電光掲示板に、その文章が表示されます。

PCたちが文章の内容を確認しようとした場合、GMは「そこには、こう書かれている」と前置きした後、P194の「過去に流

行したチェーンメールの内容」を暗い声で読み上げてください。
また、文章の内容を無視したり、確認しなかったりしたPCは、この時点でチェックしておき、後述の「シーン・GM」時、対象に指定してください。

メールを確認するにせよしないにせよ、次の瞬間、ホーム内の電灯が全て消え、周囲は真っ暗になります。

その状況にPCたちが反応したら、GMはさらに真剣な声で、次の描写を行ないましょう。

描写

暗闇に目が慣れてきたのか、それとも周辺の小さな電灯のせい、かがやいて、ホームの輪郭がうつすらと見えってきた。

すると、全員は線路の向こう側に〈なにか〉が立っていることに気付く。

〈なにか〉は人間のような形をしているが、全身がのっぺりして起伏がなく、頭部も指も人間にしては細く、長すぎた。

しかも、全身が淡く赤色に輝いており、その容姿や服装を特定することができない。

PCたちが自身に気付いたと認識したのか、〈なにか〉はゆつくりと言葉を放った

「見ツケタ……見ツケタ……モウスグ、迎エニ行クヨ……」

その後この2dは意味のない脅しです、闇のなかに〈赤い影〉が立っており、気付けばすぐに消えてしまう……という演出を行なってください。PCがメールを改めて確認したら、以後、このシーンは演出しません。

「シーン・GM」/クライマックス

★「イベント」の「情報」が開示されたら、「調査」を宣言したPCの自宅に〈赤い影〉がやってくる場面の演出を開始します。

このとき、〈赤い影〉は全身を蛭のように伸ばしてPCの家の窓の近くに張り付いており、PCにとつての大切な人や死んだはずの人物の声を真似、窓の外からPCに声をかけます。

〈赤い影〉は「PC……やめてえ、助けてえ」以外のセリフを言わず、質問されると黙り込んでしまいます。

万が一、PCが窓の外に〈赤い影〉を目視した場合、GMはPCに「狂気表」を1回振らせてください。

以後、「場所表」は「PCの自宅近く」に固定され、GMは〈赤い影〉がPCたちを追い詰める演出を行ないます。

また、GMはPCたちが逃走するなら、巡回中の警察官をNPCとして登場させてもかまいません。

PCたちは警察官に助けを求めることができますが、警察官は〈赤い影〉へと立ち向かった瞬間、異様に伸びた腕に絡め取られ、

PCたちがさらに反応を見せたら、GMは「するとホームの電灯が一斉に灯り、気付くと〈なにか〉は消えている」と答え、間もなくして電車到着のアナウンスが流れます。

直後、各PCは利き手の甲に刺すような痛みが走ります。手の甲を見てみると、まるで百足や毒蜂に刺されたかのように腫れあがり、やがて青い勾玉型へと変化します。

どのような反応をするにせよ、PCたちが手の甲に浮かんだ痣を確認した時点で、GMは「導入」を終了させてください。

なお、この「導入」でPCたちは一度出会いますが、「シーン・邂逅」では「初見表」を用い、PC①の結果を必ず8…「事故からの救出」としてください。その際、「希望」の低いPCは遠くの物陰に、「瞬だけ〈赤い影〉の姿を見ます」。

「解決フェイズ」

このシナリオでは、「解決フェイズ」中の状況に応じて、次のシーンが発生します。

「シーン・GM」/メール未読者

GMはメールを確認しなかった、または中身を流し読みしたPCの「シーン・邂逅」中に「シーン・GM」を挟み、2dを振っ

暗闇のなかへと引きずり込まれます。

直後、警察官の悲鳴と貪り食われる音が響き渡り、それらを見聞きしたPC全員は「狂気表」を1回振ります。

キーワード

本シナリオのキーワードは次の通りとなります。

- B12…呪印感染
- D12…呪印
- D14…十の災い
- D16…赤い影
- F16…真相①
- A16…真相②(追加キーワード)

キーワードの情報

B12情報…呪印感染

〈呪印感染〉とは、かつて流行した都市伝説の種だ。メールを受け取った者は利き手の甲に「呪印」と呼ばれる印が

浮かびがあり、何も行動しなければ近日中に〈十の災い〉と呼ばれる死の運命が訪れ、最後には必ず怪死してしまうらしい。

D-12情報…呪印

「呪印」とは、〈呪印感染〉の犠牲者に刻まれる呪いの刻印だ。噂によると、「呪印」はそれを持つ者にしか視認できない。

また、「呪印」は自らに降りかかる死の宿命を退ければ黒色に、死の宿命から逃れられなければ真紅に変色する。

なお、全員の「呪印」は端から赤く変色し始めている。

D-14情報…十の災い

〈十の災い〉とは〈呪印感染〉の犠牲者に訪れる災いだ。

災いはいずれも怪奇現象や猟奇事件ばかりで、〈十の災い〉が降りかかるごとに、「呪印」は二画ずつ数が増えてゆくらしい。

なお、災いには退ける手段が存在するらしく、怪事件を詳しく調べれば、戦わずに撃退する方法が見つかるかもしれない。

D-16情報…赤い影

数年前、とある動画配信者が〈呪印感染〉に感染したと告げ、ある生放送中に〈赤い影〉に気付くや、悲鳴をあげて自宅を飛び出し、失踪してしまったという。その動画を見てみると〈赤い

影〉は駅のホームで見た〈なにか〉にそっくりだ。

また、動画配信者は失踪直前〈なにか〉の撃退方法を知ったと告知していたらしい。動画配信者の考察を探せば、別の解決策がわかるかもしれない。GMは「物語展開シート」A-6マスに「キーワード…真相②」を追加すること。

F-16情報…真相①

〈赤い影〉は肉体を持つ存在らしい。ならば、直接戦って、撃退することが可能かもしれない。しかし、怪異である〈赤い影〉を本当に倒すことができるのだろうか？ が、このまま指をくわえて死を待つわけにはいかない。なんとしても生き延びなければ。

【特殊イベント】…★「決戦」に「判定」可能

A-16情報…真相②

動画配信者の考察が見つかった。どうやら〈赤い影〉は、ある種の真言を正確に唱えることで退散させることができるらしい。

そして、キミは調査の末、その真言を入手することに成功した。あとは、その真言を全員で唱え続けるだけだ。

【特殊イベント】…★「儀式行使」に「判定」可能

「結末フェイズ」

「真相」の★「イベント」を「クリア」した時点で〈赤い影〉は人間とは思えない不気味な声をあげ、逃げ去ってしまいます。

その後、【命運】が0以上のPCは「呪印」が鮮やかな黒へと変色したことに気づきます。

「真相」の★「イベント」を「クリア」できなかった場合、〈赤い影〉はPCを追い詰め、目前まで近づいたところで、「ヤット、ツカメタ」と言うや、顔が縦に割れ、乱杭歯だらけの巨大な口を見せ、消え去ってしまいます。

また、【命運】が-1以下のPC、あるいは★「イベント」を「クリア」できていないPC全員は「呪印」が禍々しい真紅へと、変色していることに気づきます。

その後、GMは「行動順」に従って、PCの「エンディング」を1体ずつ演出させてください。